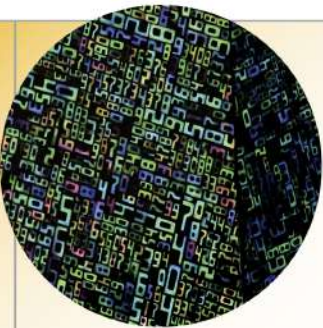


「超絶技巧！明治工芸の粋」展2015、「驚異の超絶技巧！明治工芸から現代アートへ」展(2018)で多くの人々を魅了した「超絶技巧」シリーズの第3弾。
 このたびは、金属、木、陶磁、漆、ガラス、紙などの多様な素材に、鍛錬を重ねた技法を駆使して向き合い、新たな表現領域に挑む17名の現代作家たちの作品を紹介します。
 また超絶技巧のルーツでもある七宝、金工、漆工、木彫、陶磁、刺繍絵画などの明治工芸の逸品もあわせて展示。明治工芸のDNAを継承しつつ、独自の美意識を貫く作家たちが繰り出す驚きの超絶技巧の数々に注目ください。



【漆工】

池田晃将 (1987年生まれ)
 《百千金字塔香合》
 漆、木曾檜、鮑貝、金 2022年
 虹色の数字で彩られたピラミッドは、漆器に極小の貝片を貼ったもの。



1, 2, 3, 4...
 漆に数字?
 貝を嵌め込んで
 いるのです。



【木彫】

前原冬樹 (1962年生まれ)
 《『一刻』スルメに茶碗》
 朴、油彩、墨 2022年

パーツを組み合わせることなく、1本の角材を切り、削り、彩色した一本造り。

上の鎖から
 下の足先まで
 一本の木から
 彫り出された木彫!



CTスキャン画像

【金工】

本郷真也 (1984年生まれ)
 《Visible01 境界》
 鉄、赤銅、銀 2021年
 鉄を金つちで叩く鍛金技法によるガラス。内部には骨格と筋肉までも表現されている。

先に
 骨格と筋肉を作り、
 羽を1枚ずつ
 重ね付けたガラス。



稲崎栄利子 (1972年生まれ)
 《Euphoria》
 陶土、磁土、金彩、雲母銀
 2023年
 土のリングが織りなす
 布のように軽くなやかな磁器。

【陶磁】

曲げる、捻る、
 たたむなど
 自由自在!

あの超絶技巧展がパワーアップして帰ってきます!

【七宝】

並河靖之 (1845-1927)
 《草花図花瓶》
 清水三年坂美術館蔵

並河七宝には珍しい30センチを超える大作。黒色軸を背景に、草花をカラフルに表現。



【牙彫】

安藤緑山 (1885-1959)
 《柿》
 清水三年坂美術館蔵

「美術館に果物?! 野菜?!」でおなじみの人間3Dプリンター・緑山による象牙彫刻の枝柿。



【金工】

正阿弥勝義 (1832-1908)
 《糸瓜花瓶》
 清水三年坂美術館蔵

へちまの陰から現れたへびに気付き、逃げ出すカエル。生き物による一瞬のドラマを捉えるのが、勝義の得意技。



【漆工】

白山松哉 (1853-1923)
 《羽根蒔絵香合》
 清水三年坂美術館蔵
 吹けば飛ぶような鳥の羽毛。極細の線描から生みだされる神枝の蒔絵。

